

おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

—「同じ」って大事—

NO. 87



毎日記録的な猛暑に見舞われ、「しかし暑いですね～」と、何日続けて言っているか。刺さるような暑さから、逃げるように日かげや室内に避難するって、ちょっと怖いなと思います。35℃越えの毎日がこう続くと、30℃の日に涼しさを感じるのでしょうか？ それもまた怖いです。地面に近い子ども達には要配慮ですね。

さて、『同じことを繰り返す』と聞くと、いろいろな思いが湧いてくると思います。

「またか」「もういいよ」と思う気持ちが前面に出てくる時もあれば、「はあ、同じだった。安心したよ」とホッとする時もあります。人っていつでも“変わりたい”思いと“変わりがたくない”思いとの、行ったり来たりですからね。

今回は、子ども達のまわりにある「同じ」が生み出すものを、見てみたいと思います。

子ども達が自分のまわりの世界に興味を持ちだし、“見て”“聞いて”“触れて”モノを確かめ出すと、ひとつの大きな発見があります。「あれとこれが、おんなじだ」ってヤツです。同じモノを両手に持ってそれがうれしかったり、テレビに映るクルマを見て、急いでオモチャのカゴに走り、同じミニカーを持ってきたり、図鑑を広げて同じクルマを指さしたりして大喜びです。“同じ”がうれしいし、おもしろいんですよね。私達も支援の中でそんな姿が見られると、ひとつ階段を昇ったたと、次なるステップアップを考えていきます。

あんずの支援は、毎日同じような流れ(日課)の繰り返しです。「この歌がまた始まったよ。きっと〇〇だ。昨日と同じだ」「これって前にもやったことがある。こうするんだよね」と、同じことを経験していくことで、これからすることに見通しが持てるようになり、取り組みへの構えが作りやすくなります。そして、「知ってるよ」「わかる」「できる」「やってみる」とつながっていきます。これは、場面への安心感も生み、次のことへの意欲やがんばりにつながっていきます。まだ、目の前のひとつひとつのことへの理解や取り組みが曖昧なときは、同じような課題を繰り返すことで、明確に意識付けをしていくことができます。

大人から見て“同じ”に見える取り組みや遊びは、コピーしたように全く同じということはありません。同じことを繰り返しているようで少しずつ違います。あんずの支援も、この味付けです。

まわりのお友達と“同じこと”をしたり、“同じこと”に興味を持ったりすると、直接関わりはなくても、仲間意識や所属感が出てきます。“一緒”が気持ちよくなってくるのです。

あんずや幼稚園保育所、学校から帰宅した後、毎日“同じ”遊びをひたすら繰り返している姿があります。外で一日がんばって、人や場所や活動に合わせてきたんだから、家では自分を取り戻さなきゃ。自分回復、ガソリン補給の時間です。毎日この“同じ”遊びに熱中してこそ、明日を元気に迎えられるのだと思います。



同じことを繰り返すのは、同じことしかできないからではありません。“同じ”に安心してこそ、次に飛び立てるのです。大人だってそうですね。変わらないものがそこそこあって、安心して足元が固まっているからこそ前に進めているはず。大事なんです「同じ」って。(R5. 8) K